第３回 淡海の川づくりフォーラム

公開選考会 記録集

淡海の川づくりフォーラム実行委員会 事務局

１）淡海の川づくりフォーラムとは

第 3 回淡海の川づくりフォーラムでは、“ 川と共生する暮らし ”、“ 川と私たちのいい関係 ” について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

★ 日時　　２０１０年１月３０日（土）　9:30～１７:００

★ 場所　　ラフォーレ琵琶湖　２階

★ 内容　　テーブル選考、復活選考、全体討論

テーブル選考（午前）
参加団体が３つのグループに分かれて発表します。

選考員の推薦により全体討論へ

全体討論（午後）
テーブル選考、復活選考を経て、推薦された “ きらり ” と光る活動を見ながら、“ 川と私たちの関係 ” について議論を深めていきます。

テーブル選考で十分にアピールできなくても、“ きらり ” と光る活動には・・・

復活選考（昼）
テーブル選考で見つけられなかった大切な活動を全体討論に推薦します。

選考員の推薦により全体討論へ

２）大会開催概要

第３回 淡海の川づくりフォーラム プログラム概要

１月３０日（土）会場：ラフォーレ琵琶湖

９：３０～１０：００　開会、ガイダンス
大会議室で開会宣言を行い、その後１日の流れを説明します。

１０：００～１１：３０　テーブル選考発表
選考員が中心となって議論を深め、全体討論に進む“きらり”と光る活動をテーブルごとに２団体、選びます。
テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。

（お昼休憩）

１２：３０～１３：３０　復活選考
時間内で自由に選考員に活動内容をアピールします。
復活選考から全体討論に進めるのは 1～２団体程度です。

１３：３０～１６：３０　全体討論
発表時間 5 分で選考員に活動内容をアピールします。
全団体発表後、選考員が全体討論の講評を含めて「川と私たちのいい関係づくり」について、発表された活動を見ながら、選考員を中心に参加者全員でさらに議論を深めていきます。

１６：３０～１７：００　結果発表・表彰
全体討論の結果を発表します。
グランプリ・準グランプリ等の表彰式が行われます。
河港協会賞は全参加団体の中から選ばれます。

入賞と賞名一覧

グランプリ

- 山内エコクラブ

★★★　「龍神様もあなた方のすばらしい未来を守ってくれるで賞」

準グランプリ

- 野洲市魚のゆりかご水田協議会

★★　「コイもフナもゆりかごでの産卵を喜ぶで賞」

- 環境ボランティア　草津湖岸コハクチョウを愛する会

「チャイコフスキーも皆様の踊りに感動するで賞」

河港協会賞

- ＮＰＯ法人　蒲生野考現倶楽部

★

- ＮＰＯ法人　瀬田川リバプレ隊

３）応募団体一覧

（敬称略）

	団体・グループ名	代表者	発表者
テーブルＡ			
1	針江生水の郷委員会	山川悟	三宅進，高田一雄
2	チーム・アクア	谷口幸治	柳沼宣裕
3	ＮＰＯ法人 蒲生野考現倶楽部	歯黒恵子	松口果歩/歩佳/莉歩/輝久/宏子，森田英二，岡正利，歯黒恵子
4	ウォーターステーション琵琶 子供環境班	小寺實	小寺實，下田義春，朝田雅夫
5	ヨシネットワーク	西川嘉廣	鳥飼和夫，広実照美，今井礼子，早川和子
6	佐用町おたすけ隊 土のうのお姉さん	瀧健太郎	山路正一/治世，久村尚幸，井関明子，村田葵，上原学，平居聖，田中康博，辻光浩
テーブルＢ			
7	世代をつなぐ尼子協議会	北川勝美	北川勝美，円城良和
8	ＮＰＯ法人 瀬田川リバプレ隊	富岡親憲	朝田雅夫，美濃部進，富岡親憲，伊藤達也
9	野洲市魚のゆりかご水田協議会	堀彰男	堀彰男，徳田与司機，北川保寿，井狩辰也，東智史
10	砂防ボランティア 砂防ボランティア全国連絡協議会 滋賀県砂防ボランティア協会	澤幸司	澤幸司，杉本良作
11	近江八幡市立馬淵小学校４年生	近藤恭司	近藤恭司，福永健斗，岸本裕美子，中西宣敬
12	虎姫災害支援活動ネットワーク連絡会	一谷清男	古脇ひとみ
テーブルＣ			
13	安曇川扇骨の里と桜街道復活協議会	遠藤司郎	引山誠，饗庭啓良
14	水害履歴調査隊	西嶌照毅	前田晴美，中田住久
15	環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会	横川栄仁	吉岡美佐子
16	山内エコクラブ	竜王真紀	竜王真紀，大畑美香子，竜王みやび，大畑茉美，北岡秀典，松岡遼，小倉貫太，林口直也，北岡正子，井阪尚司，竜王みゆき，中島二三子
17	みずすましネットワーク	小林圭介	和気淳郎
18	ＮＰＯ法人 子どもネットワークセンター天気村	山田貴子	澤田典子，高田拓郎，辻充子，山田貴子
計		【参加 18 団体】/発表 18 団体	

選考結果一覧

テーブルＡ

	水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
1	針江大川	針江生水の郷委員会	推薦		
2	小畑川	チーム・アクア			
3	日野川，佐久良川	ＮＰＯ法人 蒲生野考現倶楽部	推薦		河港協会賞
4	瀬田川，高橋川,琵琶湖	ウォーターステーション琵琶 子供環境班			
5	琵琶湖	ヨシネットワーク		復活	
6	千種川	佐用町おたすけ隊 土のうのお姉さん		復活	

テーブル Ｂ

	水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
7	尼子川	世代をつなぐ尼子協議会	推薦		
8	高橋川	ＮＰＯ法人 瀬田川リバプレ隊			河港協会賞
9	江口川	野洲市魚のゆりかご水田協議会	推薦		準グランプリ
10	土砂災害危険箇所	砂防ボランティア 砂防ボランティア全国連絡協議会 滋賀県砂防ボランティア協会			
11	白鳥川	近江八幡市立馬淵小学校４年生		復活	
12	姉川，高時川など	虎姫災害支援活動ネットワーク連絡会			

テーブル Ｃ

	水辺の名称	団体・グループ名	テーブル選考	復活選考	結果
13	安曇川	安曇川扇骨の里と桜街道復活協議会			
14	田川，高時川，姉川	水害履歴調査隊			
15	琵琶湖	環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会		復活	準グランプリ
16	野洲川，田村川，笹路川	山内エコクラブ	推薦		グランプリ
17	県全域	みずすましネットワーク			
18	草津川	ＮＰＯ法人 子どもネットワークセンター 天気村	推薦		

4）大会ダイジェスト

1月３０日（土）　会場：ラフォーレ琵琶湖

テーブル選考　テーブル A～C

滋賀県内･外から応募によって集まった１８団体が、それぞれの発表内容から大まかなテーマごとに 3 グループ（1 グループ 6 団体）に分かれてテーブル選考が行われました。発表時間は 1 団体あたり 5 分で、質疑応答、テーブルコーディネーターの進行により、約 1 時間 30 分かけて各グループで熱いアピール大会が行われました。熱気に満ちたアピールの結果、各グループから 2 団体ずつ全体討論に推薦されました。

復活選考

午前中のテーブル選考で惜しくも全体討論への推薦を逃した団体が、もう一度全体討論への出場を目指して復活選考に臨みました。メイン会場に一同が集まり、自作のパネルを用いてアピールを繰り広げる様子は圧巻です！約 1 時間に渡り、選考委員も選考に熱が入り、発表者と熱心に“ いい川、いい地域づくり ”について議論されていました。

全体討論

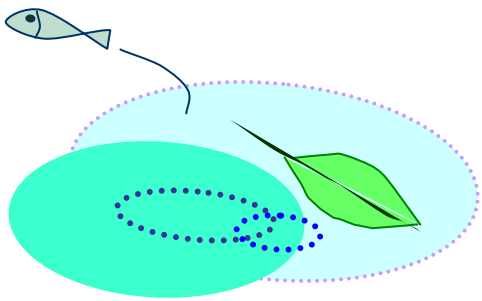
午後は、参加者全員がメイン会場にて、全体討論に臨みました。テーブル選考と復活選考を経て、全体討論には 10 団体が出場しました。さすが、全体討論への推薦を得た団体のアピールはどれも内容の濃いものばかり！選考委員のみなさんも選考に頭を悩ませていました。

各団体の発表後は、会場全体でアピール内容について議論を行いました。活発な意見交換により、参加者同士の交流が深まり、情報交換も行われました。

表彰式

表彰式では、グランプリ・準グランプリに加え、全体討論の発表団体以外からも“ きらり ”と光る活動をアピールしてくれた団体に対して、河港協会賞も賞されました。

片寄総合コーディネーターからの全体講評の後、コメンテーターである嘉田由紀子知事からの挨拶で、熱い一日が無事に閉会となりました。



全 体 討 論

総合コーディネーター：片寄俊秀さん
コメンテーター　　：嘉田由紀子さん
全体選考員　　：横山葵さん、福廣勝介さん、大橋正光さん、北井香さん

A〈推薦〉1.針江生水の郷委員会
〈推薦〉3.ＮＰＯ法人 蒲生野考現倶楽部
【復活】5.ヨシネットワーク
【復活】6.佐用町おたすけ隊 土のうのお姉さん
B〈推薦〉7.世代をつなぐ尼子協議会
〈推薦〉9.野洲市魚のゆりかご水田協議会
【復活】11.近江八幡市立馬淵小学校 4 年生
C【復活】15.環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会
〈推薦〉16.山内エコクラブ
〈推薦〉18.ＮＰＯ法人 子どもネットワーク天気村
（注：〈推薦〉はテーブル選考で推薦された団体、【復活】は復活選考で推薦された団体）

片寄さん：　４人とも一致したのがありません。なかなかみんな個性的な審査員だったということで、これはいいですね。
　まず針江生水の郷が、おっ、ないじゃないですか。これはいかんなぁ（笑）。これは、良過ぎて入らなかったんちゃいますかね。あの環境はすばらしい環境でね、既に世界的に有名な郷ですからね。３番の NPO 法人蒲生野考現倶楽部に３票。これいいじゃないですか。次が世代をつなぐ尼子協議会、それが１票。９番の野洲市ゆりかご水田、２票。山内エコクラブ、３票。子どもネットワーク天気村、１票。それから 5 番ヨシネットワークが、１票。６番の土のうのお姉さん、１票。11 番の近江八幡市立馬淵小学校が２票。それから、15 番の環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会が 2 票。ということに第一次の数字が出ました。
　さて、ここからがバトルですねぇ。3 票が２つ。2 票が３つ。あとが１票、それでよかったかな。それで、お一人お一人審査員の方に、私はこういう理由でこれを入れたという話を振るんで、いいですか。それをしてもらいます。落とした理由も、それは適当に言っていただいて結構ですけれども。それでは、横山さんから順番でお願いします。

横山さん：　今の時点で、選ばせていただきましたのは、蒲生野考現倶楽部さん、尼子協議会さん、お天気村さん、ヨシネットワークさん、を選ばせていただきました。
　先ほどご説明させていただいたように、地域をプランニングするという、地域のオリジナリティをすごく磨いていってですね、地域の生活文化がきちっと磨かれていくというようなそんな活動に、今回は投票していきたいというふ

うに考えています。

蒲生野考現倶楽部さんは、いろんなところから、いろんな方が来られているんですけど、ほんとにその日野川やいろんな川ですとか、いろんな地域のところもきちっと磨かれていてですね、その活動もすごく長いということで、入れさせていただきました。

尼子協議会さんは、新たなこういう生活文化の匂いのする景色をきちっと再生しようということで、すごく、なんて言うんでしょう、皆さんの取り組みの中でこういうことをしっかりやられているということで入れさせていただきました。

お天気村さんの活動はですね、あれだけでは、少し表現できなかったかもわかりませんけど、一声かけてわぁっと会場全部、巻き込めるっていうのはそれだけのキャリアがあるからなんだって私は思っているんですけど、そんなかんじでこの滋賀県全体の子どもたちを元気にするとかですね、そのへんの地域と磨きがかかったものがとってもよくわかってらっしゃる方々なんだなぁと、ここに1票入れたいなぁと思っております。

ヨシネットワークさんは、A のテーブルでもお話させていただいたように、私、活動団体も資金を作るために、新たな産業を興すっていうようなものが、なんかないかなあと、いろんなところにいろんなものを売りに歩いくという活動を去年からさせていただいていまして、首都圏に、ヨシ紙を持って行ったところ、ものすごく反応がいいんですね。20 倍以上の価格がするんですけれども、環境っていうのに皆さん着目していて、何か参加したいというところで、このヨシっていうのはすごく取っ掛かりもいいし、紙の質も良さそうだ、さらに琵琶湖のということになると、皆さん注目もすごく高いということもあってですね、このヨシに関わって、それを磨かれようとしているこの活動に１票という形で入れさせていただきました。以上です。

片寄さん：　あの落としたけれども、ここは惜しかったっていうのを、ちょっと入れていただけるといいんですけれど。
４票に入れたかったけれど入れることができなかったっていう…

横山さん：　そうですね、地域のボランティアっていうところでちょっといきますと、私は去年一年、九州に行ったり北海道に行ったり、自然の食品を売っていらっしゃるとか、高級スーパーとかに、いろいろマーケティングに行ってきたんですね。その時に必ず出てくるのが、特殊な作り方をしたお米っていうのが出てくるんですよ。必ず地域活動団体が関わっているお米で、かるがも農法のお米ですって、売ってるのは 30kg じゃなくて 5kg くらいなんですけれど、それがコンスタントにいろんな方々が買い始めている。まだ、どんどん買っているっていう状況じゃないんですけれど、買い始めているってところで、今この魚を田んぼに取り戻そうというような活動をされている、そういうところを応援したいなっていうふうに思っていまして、1 票ちょっと入れ損じております。

（拍手）

福廣さん：　僕は、山内エコクラブにまず１つ入れさせてもらいました。あの、僕は源流１ファンなんです。環境って下流の都市･人のキーワードみたいになってるけど、源流部のサインじゃないかって僕は思っていて…源流ファンなんです。

そこでおじいちゃん・おばあちゃんから物聞いて、子どもが聞くってこれは、年代としてもおじいちゃん源流を聞いてるってかんじで世代間を繋いでいて。あの屏風。あれ作るときにめちゃくちゃ勉強してると思うんですよね。これは入れざるを得ん！というのが山内エコクラブですね。

もちろん発表の元気さ、僕はきっとコメディアンになるって言うてるんですけれど。それから、源流ファンっていう見方でみると、ちょっと似てるんですけれど僕、一次産業の応援団です。

それについていうと、魚のゆりかご水田協議会。魚のバリアフリー・魚道を作ってもらっている。これは助成金もらってやっているという話でした。はっきり言ってそんなにお金いただいてないんではないかと僕は直感で思ったんですけれど、労働は別にしまして。これ、ブランド化って今、お話もあります。ブランド化したこの米が、近年値段高いですか？っていうともちろん高い。きちっと売れるようになったら､助成金切れてもせめて漁道は継続していくやろうという。いわゆる環境やなしに産業ときちっと連携している。行政連携やなしに産業連携やという､連携いうか産業そのものやということで入れさせてもらいました。

それから、コハクチョウ。やっぱりもう手一杯やってる。考え得ることはなんでもやってる。もういっぱいやってる凄さ。

それから一番思ったのは､自分のとこの白鳥が一番ええって｡実はとある人と､まちの行政マンの人ですけど､「市長はどんな人がなったら一番ええんや？」って､「自分の町が一番好き､一番好きを思てる人がええんや」って話をこないだしておりました｡そんな意味で自分のところの白鳥が一番綺麗やって思てる人がきっとええやろうということです。

それから 4 つ目ですけど、馬淵小学校です。褒めたいんですけど、発表下手やなぁと思いまして。朝の発表よりまだ落ちた。ものすごくポテンシャルきっと持ってると思うてます。総合学習てなんや、理科と社会とひっつけて、地元の先生にしゃべってもらったら総合学習や､みたいに言うてるところようけありますけれど、地域の生物学習して、おじいちゃんから話聞いて、行政の五回の連続の指導もうて、ハザードマップ作って。もっと言うたら先生の思い。嘉田さんに、去年も言うたと思うんですけど、人事特区までやってもらって、地元採用は、地元出身の先生は小学校で必ず絶対要る。こういう先生がおってくれたら、環境も何もかも総合で勉強できるんやないか。そんなポテンシャル持ってるのに､発表下手やから､あんまり目立たへんたんちゃうかという感じがしています。

もう一つあったっていうのは､長いんですけどすみません､土のうのお姉さん。さっきも言うてました県の助成とかなんとかの話。清水さんと朝のテーブルで言うてたんですけれど、瀬田川のリバプレ隊に安全ステップを県の助成金で作ったとか。県の職員一人そこへ来てくれたら、きっとええんちゃうか。もうこれを佐用町で土のうのお姉さんやってくれてる。本当はもう１票ほしかったというところですね。

（拍手）

北井さん：　北井です。どの発表もすごく良かったので、迷ったんですが、切り口とかこういうことにこだわったとかというのは特になくて、発表からこれが好きでやってるんやなっていうすごいこだわりが、もう私がこう受け止めたなぁ！というやつに入れました。

１個はですね、土のうのお姉さんの佐用町のおたすけ隊に入れました。これは行政の人と仕事をしてたら、ここはちょっと出来ないんですよとか、ここはこういう決まりなのでとか、出来ないことってけっこういっぱいあって、その中で仕事をするのもけっこう大変やろうなって、ひしひし感じながら、日々仕事の中で関わっているところもあるので、そこをですね、打ち破って、手助けに行かれて、しかも何でする意味があるんやろうって思いながら練習することってすごく大変やと思うんですけど、それが役に立ったっていうことの喜びというか重要さっていうのはすごく大きいなと思いました。また、滋賀県でなんかあったときに、きっとそうやってボランティアに行った方が、一番活躍できる実践経験を積んでおられるというような面でも、とっても重要なことだというふうに感じています。

もう 1 個はですね、コハクチョウの吉岡さんに入れました。これは、テーブル C だったんですが、惜しくもこれが落ちまして、復活選考で上がってきたのを見ていただくと、すごい馬力のある活動やというのがわかってもらえるかと思います。去年はホタルの学校の荒井さんが大ブレイクされたんですけど、今年は吉岡さんだなぁと思って、滋賀県はすごいスーパーなおばちゃんがいっぱいやなぁと思って。こういうかんじの方を目指していかなきゃダメなのか、目指せるのか、これは？！というくらいに思いました。（笑）

あと２つ。山内エコクラブさんに１つ入れました。やっぱり 6 人で 5 年生一学年全員だということで、学年がやはり団結された中での発表だなぁという思いがすごくしたのと、地域のおじいちゃんたち、おばあちゃんたちに聞き取って“さんまい”に行ってそれが“みくまり”さんになるんやと、生死の関わるような地域の文化の話を聞き取って、それが重要なんだっていうのをですね、まとめてこうやってここで伝えてる。5 年生の 11 才くらいの子がこうやって力強く伝えてくれているっていうのが、毎回毎回聞いて感動します、はい。

あとは、蒲生野考現倶楽部さんに入れました。3 人女の子のちっちゃい子がですね、最後に「水辺の未来は私が守るんや」っていうのに痺れまして。（笑）すごくいろんな活動を一年通して複雑にされているので発表してないこともたくさんあったんだろうと思うんですけれども、その部分をやはり一歩の活動が凄いということで４つ目に選びました。４つ目は実はほかのところもどの地域の活動も凄くてですね、とっても迷って４つ目どこに入れようかなって、女の子の一言だなぁって決め手になった感じでして、甲乙付けがたく、何がダメで何が落とした理由だって言うのがちょっと言い難いようなかんじです。以上です。

（拍手）

大橋さん：　はい。大橋です。私も同じように４票というのがありますので、それぞれの思いで入れさせていただきました。

まず最初の蒲生野考現倶楽部さん。当初の感想でも申し上げましたように、かなり古くから先生方が中心になって地域の川作り、また環境作りというよう

な状態で、長く取り組んでおられるんですが、やっぱりそれが毎年毎年肉付けされているんですよね。その辺の素晴らしさ、もちろん指導者の方が主でやっていただいた訳なんですが、それに流されず生徒さんも一緒になって、一丸となって地域を守っていく、環境学習をやられているという状態の持続・継続をされているということについて高く評価をさせていただいております。しっかりとやってもらいますので、これからも継続していただけるということを思いますし、将来の状態を託して、入れさせていただきました。

２つ目に、山内エコクラブですか。今先ほどもいろいろおっしゃいましたよう龍神さんは、雨乞いの神さんなんですよね。「特にあいの土山、傘を忘れるな」と言われるほどですね、最近は雨が多いとも言われておりますが、これは龍神さんの賜物なのかなと先ほどの発表の中で改めてコメントされたんですが、それほどだいたい龍神さんというのは、年配者の方が信じたんだろうと思いますが、いわゆる生徒たちがそのことをきちっと聞き伝えし、また地域の宝として、文化として残そうという心意気について、私は素晴らしいなということを思いましたし、これからも地域の子どもたちみんなが、また次の方たちに、ちょっとここへユニークなジョークを入れながら、伝えていただけたらありがたいなとそんな思いで投票させていただきました。

ゆりかご水田協議会さん。これは私どもと同じテーブル B で発表されたんですが、新しい 3 年目なんですが、農地水環境の取り組みでやられております。

特にここにつきましては、琵琶湖から 1km 足らずの地域でありますので、ふだんから琵琶湖の魚、特にフナとかナマズとかが、田んぼの中にいつも上がっていて産卵するというのが常道やったんですが、土地改良が出来まして、その排水と田んぼとの高低差が１mも２mも出来たと、それをいかにどうするかと。地域で勉強され苦心されまして、魚道、いわゆる魚の道を作ろうということをし、それぞれから、排水口から田んぼの中に魚を放り込む。いうような手法、同時にこれ、灌漑用水だったんですね。で私らから琵琶湖から 2km も 3km も上流でしたら、いわゆる水田の代掻きやるときには、水が汚れますので、その水を一時ストップすると。止めて上水を琵琶湖に流すと。そういう手法が問われているんです。これも同時に汚濁を流さないっていう手法と、魚を復活さすという手法を採られているということに、より良いアイディアがあるんではないかなと。でそれからその米は、エコ米として、こだわり米として、いわゆる市場価格よりも高く販売すると。その代わり、魚を入れてることですから、農薬を使わないということもありますし、非常にこだわってやっていただいておりますし、聞いていますと、事業がもうあと 2 年。今年と来年ですので、その事業終わったらということになるんですが、これがちょっと起爆剤になって、呼び水となって、地域の活性化に繋げていただきたい。そんな思いで投票させていただきました。

それと馬淵小学校の取り組みなんですが、発表先ほど下手だと言われたんですけど、私本当に熱い熱い思いを持っておられて、取り組んでいただいてることを、目の前に私も見させていただいております。いうことでございますので、学校の中にいわゆる校外活動っていうんですか、取り組みっていうのは大変なんですよね。それを門戸を広げて、先生が地域のことに、ここの地域は（昭和）28 年の時に水害で人が亡くなってるんです。そういうのをたぶん先生は存じ上げておられるんではないか。そういうこともあって地域のやはり今日までの怖かったこと・危なかったこと・川の恐ろしさ・または楽しさそのことを充分知っておられるということで、子どもに伝えていかないかんということで伝えておられる。それがおじいちゃん、おばあちゃんや地域のみなさんを巻き添えにして、日野川

での災害の経験者を呼び込んで、一緒に学習をされている。これからやはり先生が違うところに赴任されたら、それが消えるんやなしに継続していく、県がサポートしていくという、そういう状態の一つのひな型やないかなと思いますので、今後継続していただくことを念じながら投票させていただきました。

入れたかったっていうのか、入れたんならんていうのは、コハクチョウのところもございます。また、土のうのお姉さん。土のうのお姉さんは、もっとより地域で頑張ってもらった人に、そこで盛り上げていただきたいし、そのために、やる気を起こしていただけるために、押していただくいうことで、そこで何か当たり前やないかいなっていう感じが一部するんですが、今日遅れてたので、改めて県の仕事やっていかないかん。私は地域の災害であろうと、そのときは率先して県の職員が、そこの出前講座にしても、防災訓練にしても、出て行くという状態をきっかけにしていただきたいなと。今日まであまりそれは出ないんですよね。知ってても知らないふりをするという現実であるし、そういうことをきっかけに若い人がやれるんやということを地域の県職やみなさん、また市職のみなさんも、これからの状態は、地域の状態と事業。この災害とかボランティアすべての状態については、特別して率先して参加する。そういう状態をやっていただきたいなと。また私も４票でございましたので、そこに投票できなかったことも申し上げました。ありがとうございました。

(拍手)

片寄さん：　この会は講評が値打ちですね。こうやっていろんな角度から見てるんだよっていうお話をしていただくと、みんな次から勇気をもらえるし、知恵ももらえると思ってね。この中にも 0 票というのがありましたし、ここに上らなかった午前と午後の間で落とされてしまった発表もあるんですけど、是非うちの発表についてはコメントがほしいという方おられますか。講評してもらうんでね、ここらへんこうしたらいいよっていうのはヒントもらえますんでね。どうでしょうか。うちは何も言うてくれへんのかと。恨みが残るとまずい。こんだけ一生懸命やってるのに。そのへんで、うちやってくれ！って手上げてくれます？そしたら素晴らしい、褒めるか褒めないかはともかくとして、言ってくれると思うんですけどね。どうでしょう。え、いません？ここで落ち込んだらもう立ち上がれないというのは困るんです、こっちが。せっかくここまで来ていただいたんですから。ないでしょうかねぇ。せっかく京都から来てくださった方々どうですか。京都は滋賀に比べてずいぶんレベルが低いなぁという印象をみんなに与えてしまいますんでね。（笑）はい、はい、どうぞ、どうぞ。

谷口さん：　京都府の職員でやりました、11 名でやりました、水の循環に関わる研究でございます。ということでやったんですけれども、テーマはですね、都の氾濫・京のはんなり水めぐり～おかえりやす京の水～ということで、べたべたの京言葉を使いましてやらせていただきました。昨今ですね、水の使い方が雑だと。蛇口をひねれば水が出てくるし、トイレもレバーをひねれば汚水へ流れてしまうと。今日お話がありました川と…

片寄さん：短く短く…

谷口さん：非常に使い方を考え直してですね、水に関する防災、環境についても考えてみませんかということで政策提言をしました。人の輪、いわゆる強力なリーダーシップ・密接なパートナーシップが必要だということで政策提言をいたしました。以上でございます。

片寄さん：せっかくなので。テーブルはどこでした？

谷口さん：A でございました。

片寄さん：テーブル A はどなたでした？横山さんからちょっと厳しく、ひとつ話をいただければと思います。

横山さん：　突然なんですけれど、今の発言でしたら、政策提言しました！おしまい。みたいに聞こえるんですけれど、そうではなくて、今回発言いただいた中身っていうのは、行政マンとして関わって、いろいろ悩むんだけれども、そこにいろんな方が入っていただいてですね、住民さん、まちの人とどうやって取り組むの？みたいなものをすごく悩んできたと。悩んできても結局自分の役割が終わると辞めてしまうんではなくて、これから継続してやっていかないとたぶんいけないだろうなという行政マンの悩みみたいな形で発言された中身だったと思うんです。つまり、行政の方とまちの人がどういう形で近寄って、いろんな活動をわかりあって続けていくのか、スタートし始めたところだというような発言だったかなぁというふうに私は受け取ってるんですけれど、そんなかんじですかね？

谷口さん：はい、そうです。

横山さん：　もう、経験するしかない。いろんな、ここにいらっしゃる方もたくさん経験積んでらっしゃる方がいらっしゃるので、いろいろ、いろんな角度でご意見聞きながらですね、体験するしかないんかなぁって思ってるんです。きっと今取り組まれている方のスタンスであればね、本当に素直に一市民としてもお聞きになられるだろうし、行政マンという立場でもお聞きになることができて、すごく上手いコーディネートがどんどん、どんどん出来上がるんじゃないかなっていうふうに思っていますので、果敢に臨んでいただければと思います。

（拍手）

嘉田知事：　いいですか？あえてコメントさせてください。ようこそ滋賀に来てくださいました。実はですねここ 2 年 3 年、淀川水系流域委員会というところを舞台にしてですね、例えば大戸川ダムの問題どうするんだ、丹生ダムの問題どうするんだというところを、行政というこの仕組みの中で話合いをしてくると、どうしても下流は下流の論理、上流は上流の論理で、下流からはやっぱり枕を高くして眠りたいから上流にダム作ってくれ、上流は下流がたくさん負担してくれるし、実は上流の負担ってほとんどないんですよ、ダムを作る場合には。ただ、水没予定地の人たちは大変な犠牲をというようなことでですね、どっちかっていうと、真ん中に国が入って仕組みができてきたんですね。それに対して、今回京都府の山田知事なり、大阪府の橋下知事と知事同士でいろいろ話し合いができるようになった。ただ、まだまだ行政の担当者同士がなかなか住民も交えた形で素直に交流ができないんです。ですから今日の谷口さんたちのこういう

活動ですね、ぜひ行政同士が、ある意味で上流と下流が一緒に力を合わせてやるんだという突破口にしていただきたいと大いに期待をしております。みなさんこういう京都府の職員さんが増えてくれることで、大阪からも来てもらって、逆にまた滋賀も京都・大阪に行けると。それが流域自治の根っこになっていくこと大いに期待して、私は 1 票入れる資格はございませんでしたけれども、是非これからもこれに懲りずに広げていただいて、上下流の流域自治の突破口にしていただけたらと、期待の言葉を述べさせていただきます。ありがとうございました。

（拍手）

谷口さん：ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

片寄さん：　“京へ上る”という言葉があって、京都が一番上（かみ）やという意識があって、実は上流はこちらなんです。滋賀県は上流階級の、京都は下流のまちなんです。こうやって考えると、上ってきたなぁと。

まぁ川はね、上から下までさまざまな時代関係が対立する中で、それをどう折り合いをつけてやっていくかっていうのが民主主義の基本なんですね。民主主義の実践の場っていうのが河川だって言われていますけれども、まさに今日の交流は良かったなぁ。京都から来て下さいましてありがとうございました。本当にご苦労様でした。もう一度拍手を。

（拍手）

それでは、次の段階に進まなければならないわけですが、ここで一人 1 票ずつ持っていくのでいいでしょうかね。2 票がいいでしょうか。1票？審査のみなさまは？

嘉田知事：　同じところに入れてもいいですか？

片寄さん：　いいですよ。だからこれに上乗せするという。おかしいか？いいですか？いっぺんチャラにしますか。3票と 2 票。1票下ろしていただいて、5つで争うと。どっちがいい？その 1 票ずつでも、今0のとこに 1 票の人が皆集まったら逆転するという、スリリングな方法がありますし、あるいは 2 票以上で5つの選考者中から選ぶというのがいいのか。どっちしましょうか？3と2を選別すると辛いですよね。1 票を悪いけれども選から外す？頷いていますねぇ。どうする？

横山さん：1 票のものを外すと、今おっしゃたんでしょうか。それぞれの方がそれぞれの形でお話になられて、ああそうかっていう気づきもあるかもしれません。

片寄さん：人間の心は、うつろいやすい、変わりやすい。
ではこのままで、上乗せで 1 票、うん。

横山さん：上乗せ？チャラにして 2 票ずつ。

片寄さん：おお。凄い意見が出てきました。チャラにして 2 票ずつという意見はどうです

か。どう？今度我々も（手持ちの票を）貼りましょう。もう 1 回 0 に戻す。1 回目の投票は何の意味もなかったと。（一同笑）

ああ、1 回目の投票はコメントをするネタ作りだったと。このように解釈すれば、あれはあれで終わった過去のことであると。今から新しい世界が始まる。一人 2 票ずつ。２？３？

嘉田知事：　せっかく蓄積してきたんだから、いま私たちがやるべきことはまず、グランプリ選ぼう！ですよね。蓄積してきた上にたとえば、3 票と 2 票のだけちょっと前に出していただいて、その中からまずはグランプリ？

片寄さん：結論を急ぎますねぇ。

嘉田知事：ああ、はい。政治は決断をしなければならないですから。
（一同笑）
と、いう意見もありますと。

片寄さん：そうですねぇ…(会場進行中)

はい。だいたいグランプリ一つと準グランプリ一つくらいの気持ちでおるんですが…場合によってはどうしても！ということはあり得るんですが。

嘉田知事：　あの、去年グランプリ、準グランプリ獲った方達が、記念品を準備してくれているんですね。それが 3 つある。グランプリ、準グランプリ合計 3 つまでは OK なんです。

片寄さん：　よし。あの、ここから悪いけれど上の 5 つで。上の 5 つについて一人 2 票ずつ、やります。それおかしいっていう異論のある方おられたら…ないですよね。それでは今から 2 票を持って、また始めましょう。

（選考中）

横山さん：同じところに 2 票っていうのはあるんですか？

片寄さん：いや、ありますよ。あー！それはない、それはない。

スタッフ：土のうが 1 票。野洲市さんが 2 票。山内エコクラブさんが 5 票。
馬淵小学校が 1 票。コハクチョウさんが３票。

片寄さん：　龍神さん(=山内エコクラブ)が圧勝ですねぇ！もう 1 回コメントを聞いてみましょう。意見言うてください。どうするかについて意見をお願いしたいと思います。横山さん。これからどうやって審査を進めるかについて。なんか釈然とせん顔してますねぇ。（間）
3 票ほしかった？あと１チャンスを？おまけ。あと一つ、いきましょう。
コハクチョウ 15 番さんが４票。近江八幡市立馬淵小学校が 2 票。それから、山内エコクラブ、増えました 6 票。それから、魚のゆりかご水田が 5 票。わくわく体験 1 票。という結果が出てきました。もうだいたい結論が出ましたねぇ。結論出していいですか。それでは、第 3 回の淡海の川づくりのグランプリは、山内エコクラブ！

（拍手）

おめでとうございます。準グランプリは 2 つありまして、野洲市ゆりかご水田協議会！

（拍手）

おめでとうございます。もう一つの準グランプリが、環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会！

（拍手）

ということでグランプリを決定させていただきました。この選に漏れたところは本当にあの残念でしょうけど、次を期待するということで、もう一年精進していただいてですね、来年ぜひ。

そうしたら、ここまでで一応、選考を終わりたいと思います。
どうもご協力ありがとうございました。

（拍手）

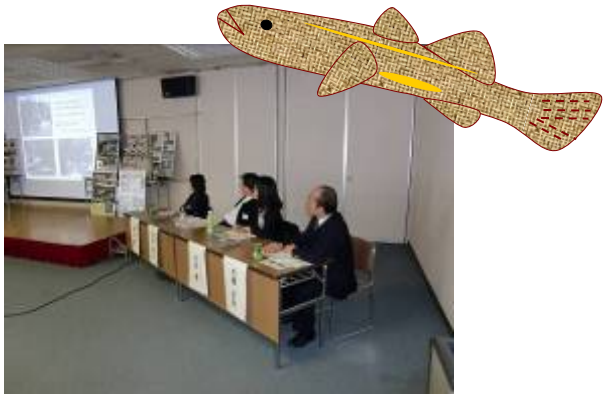


表　彰　式

グランプリ　　「山内エコクラブ」★★★

賞状、グランプリ、「龍神様もあなた方のすばらしい未来を守ってくれるで賞」。山内エコクラブ様。あなたは、第 3 回淡海の川作りフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちのモデルとなる活動を発表されました。その熱意と成果を称えここに賞します。平成 22 年 1 月 30 日、滋賀県知事 嘉田由紀子。

準グランプリ　「野洲市魚のゆりかご水田協議会」★★

賞状、準グランプリ、「コイもフナもゆりかごでの産卵を喜ぶで賞」。野洲市魚のゆりかご水田協議会様。あなたは、第 3 回淡海の川作りフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちに希望を与える活動をされました。その熱意と成果をここに称えます。平成 22 年1月 30 日、滋賀県知事 嘉田由紀子。

準グランプリ　「環境ボランティア　草津湖岸コハクチョウを愛する会」★★

賞状、準グランプリ、「チャイコフスキーも皆様の踊りに感動するで賞」。環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会様。あなたは、第 3 回淡海の川作りフォーラムにおいて「川や水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」をめざす仲間たちに希望を与える活動をされました。その熱意と成果をここに称えます。平成 22 年1月 30 日、滋賀県知事 嘉田由紀子。

河港協会賞　「NPO 法人 蒲生野考現倶楽部」★

賞状、滋賀県河港協会賞、ＮＰＯ法人 蒲生野考現倶楽部様。あなたは滋賀県主催の第 3 回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川と水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおおいに貢献するものと認められましたので賞します。平成 22 年1月 30 日、滋賀県河港協会会長 辻村克。（代読）

河港協会賞　「NPO 法人 瀬田川リバプレ隊」★

賞状、滋賀県河港協会賞、ＮＰＯ法人 瀬田川リバプレ隊様。あなたは滋賀県主催の第 3 回淡海の川づくりフォーラムにおいて日々取り組まれている活動が「川と水辺と私たちの共生」「川や水辺と私たちのいい関係」を育むうえでおおいに貢献するものと認められましたので賞します。平成 22 年1月 30 日、滋賀県河港協会会長 辻村克。（代読）

講評とメッセージ

片寄先生の講評

本日、一日ありがとうございました。

提案なんですけどね。龍神さんのところを見たことない人も、行ったことない人もけっこうおられるんですよね。それから針江、素晴らしい環境です。安曇川の竹林はどうなるんやろうか。各地素晴らしい地域で、素晴らしい活動が行われている。これを訪ねるツアーを企画したらどうかな。あんまりいっぺんにようけ行くとなんなんで、それでも、200～300 人くらいのツアーを受け入れていただいてですね。ツアーで一番大事なのは食べ物。それからご案内をいただく。

今日の発表でもわかるけど、案内が巧ければ素晴らしい地域なんです。つまり観光行ったときに、説明が悪かったらね、どんなところに行ってもああそうかで終わっちゃうんですけれど、そこに**心のこもった、こんな活動してこうだったんだよっていう説明があると、一見つまらないようなところでも、そうだったのかって新しい感動を受けると思います。**説明とそして食べ物。これを基本にして、ぜひ今年中にツアーを企画したらどうかな。

最初は、関係者だけでこっそりとやるのがいいと思う。一般公募するんじゃなくて、これまで参加して発表された方々、参加された方々と評判をいうのはこっそりやった方が、「おっ、オモロイことしよる」というのがすーっと広がっていく。それを軸に、滋賀県は、琵琶湖を取り巻いて環状にある地域ですから、ネックレスみたいな、一つ一ついいところを繋げていくツアーがこれから出来てくるんじゃないかな。「滋賀水辺のエコツアー」なんていう売り出しをすると、やがてたくさんお客さんが来る。1 回目はこっそりやるとして、2 回目からは 1 万人くらいを。1 万人で一人 5,000 円落としますと、5,000 万円。これは冗談じゃなくて、滋賀県のこの環境は世界に売れると思っています。**一番大事なのは熱烈に、各地がそれぞれ魅力をアップすること。**その魅力、それぞれが個性を出して光り輝いてきますと、それが環境になって、そのまま世界に繋がる。エコツアーを求めてくる人が、年間に 10 万人。受け入れる方も大変なんです。お客さんが来るのはいいが、嫌な客は来てほしくない。いいお客には、しつらえを巧くして受け入れ体勢を作らなければなりません。

これからは、観光の時代です。戦争やってる時やないんです。国と国、地域と地域でいろいろ戦ってますけれども、これからはね、国と国の、人間と人間の平和な関係が観光ですよ。だからお互いに交流することによって、交流人口を増やす。過疎化しているところだって、大勢お客さん来ると、人も戻ってくるし、I ターン U ターンも増えてくる。それはそれぞれ地域が魅力を持つ。この素材はたくさんあるし、人間がこれだけおられると。これを育てていくことによって、**滋賀県全体が言ってみれば世界に売れる観光地になっていくんじゃないか。**平和で売っていくという世界戦略を考えないといけない。今まで日本、戦後の復興は、朝鮮戦争とベトナム戦争と最近のイラク戦争。これで、経済をぐーっとアップしてやってきたわけですよ。こんなやり方

では、人類の先はないんです。

人類のこれからは、平和でどうやって経済を豊かにしていくかという問題なんです。そのときに観光です。観光は今まで“観光土産”みたいに汚れたイメージがある。本当は光を観る・観せるというすばらしい言葉。だからこれからは観光の時代やと思ってください。それぞれの地域に上手に、「友あり遠方より来る、また楽しからずや」ってそういう関係で来てもらって、お金を落としてもらう。これが大きい産業につながっていく。10 万人で一人 5,000 円落とすだけで、5 億。10 万人来ますでしょうか。つまり、さっき嘉田さんと話してたんですけど、中国が今、環境汚染で湖水が汚れて汚れて困っている。琵琶湖はなんでだんだんきれいになっていくんだって、この知恵を学びたいって言う方が、中国 12 億なんぼの、ほんの 0.001%の方が来られただけで、十数万人。それぐらいの交流がすぐ起こります。学びに来られる観光がこれから増えてくると思います。そうやって考えますと、この辺は琵琶湖から淀川、そして大阪湾まで含めて琵琶湖淀川流域全体がね、大きい環境を学ぶ場になっていくし、われわれ大学なんかもその中で一緒に成長していくと、学ぶということが経済活動につながっていくと思います。そういう未来を目指して、まずはこっそりと、これまでのグランプリ・準グランプリを巡るツアー、うちはそれにはなってないけども、ぜひ来てほしいという方はですね、事務局のほうに受け入れたいと言ってください。これからちゃんと組織立てていけると思います。

それが滋賀県の経済活動の基本になると思います。やり方はね、四国の遍路巡りですよ。お接待という考え方でね。一つ一つ全部回らないと成就しないと。滋賀県の琵琶湖飛び回って、一番札所か二番札所か環境札所みたいなのがあって、八十八箇所全部巡ると環境博士になれるというような、そういう戦略。若い人にはね、とにかくよくいいもの食べさせてください。実は餌付けって言います。（笑）そしていい環境を作ると、その人たちがまた帰って宣伝してくれますし、いつまでも、いくつになってもサポーターになってくれる。そういう平和戦略で日本の国を作っていく。今日はその兆しがだいぶ見えたなと思いますし、行ってみたいでしょう？いろいろ話聞いたところ。ねぇ、僕も行ってないところがたくさんありまして、行きたいなぁと思っています。ツアーを早速企画したいと思いますので賛成の方、拍手してください。今日は付き合っていただいて、どうもありがとうございました。

（拍手）

テーブルコーディネーターのみなさんから

大橋さん：　挨拶が終わったあとで、もういっぺんしゃべるのも大変でございます。18 団体。それぞれの本当に可愛らしい発表された後の顔を見てますと、私らもやらないかんなとひしひしと感じさせていただいております。また来年もこれ以上の淡海の川づくりフォーラムを開催できることをご祈念いたしまして、終わらせていただきます。ありがとうございました。

（拍手）

北井さん：　本当にしゃべりにくいんですけれど。今回 3 テーブルに分かれて(選考があったので)、復活選考でしか見られなかった発表もたくさんあってですね、充分質問したり、やりとりの中でここはこういう活動してるんやなぁっていうのを深く感じて、グランプリなどの賞を決めていくんだろうと思うんです。けれど、全体選考になかった発表もとっても思いの溢れるもので、今後も続けて広げていけるように、ずっと頑張っていただきたいし、周りの人にこういう会があるよと、こうやって発表に出てきたら、ほかの団体やいろんなところに繋がれて、アイディアももらえると、そういうふうなことでまた来年も続けて参加していただけるようにお願いしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

（拍手）

福廣さん：　今日の発表で本当に地域での活動が、正しく評価出来るかっていう会話をさっきからしてたんですけど、当然限度があると思うてるんですね。ただここで感動の発表してもらえるっていうことは、感動を受けると何か新しい動きのきっかけになるかもわからん。それから賞をもらっていただきますと、その団体は自覚してもらわんなんですね。魚のゆりかご水田の皆さんにさっき言うてました、「助成金切れても魚道やってくれるやろうな？」「やります！」と。約束してもらうことになる。そういう意味で、本当に現地での、ツアー行ってみんとわからんかわからんけど、発表には限度があるけど、ここでのこういう褒め方は非常に僕は良いのではないかと。

　最後に一つだけ、ややこしいこと言うときますけど、県職の皆さんが、補助とか連携っていうのは、直接労働でやってもらうのがものすごええと思うんですね。それから、地域住民の方もますます行政の支援なんか要らんっていうかんじで、思いっきり直接的に頑張ってもらう。そのあとにきっと新しい協働の形が出てくる、滋賀型の協働の形が出てきて、これが売れ荷を作るんやないか、この会から新しい協働の形、売れ荷が出来るんやないかって期待しております。長くなりました。

(拍手)

横山さん：　ありがとうございました。最後、最終選考がこういう形になったていうのは、皆さん感じてらっしゃるかもわからないんですけど、こういう場ではプレゼンテーションなんですよ。活動の背景は見えないんです。それをいかにプレゼンテーションするかで勝ち抜けるんですわ。自分のところごっつい頑張ってるのに、なんでグランプリ獲られへんかったんやろうって思われる方は、実際はこの場で、一瞬でプレゼンテーションする力が及んでないっていうことなんですよ。でもそれってとっても大事なことなんです。そういう力を身に付けることで、自分たちの活動に励みになるっていうのが実際なので、ぜひこういう場で勉強していただければと思います。それと、先ほどから地域のブランディング化っていうことをお話をさせていただいて、片寄先生から、「これからますます観光っていう側面で、滋賀を磨きましょうよ」っていうお話をいただいたかと思うんですけれど、まさにそういうことなんです。

　滋賀県は今、今年から「おいしが、うれしが」ということで、食に関しても地域の今まで磨かれていなかった物を磨き始めているっていうことをなんとか組合もやられているし、来年は、篤姫を書かれた方が、“ お江 ”ということで、長浜のあたり湖北のあたりが大河ドラマの舞台となると。こうやってどんどんどんどん滋賀県に光が当たる要素が、積み上がってきているということなんです。環境活動団体さんが、一次産業・食べ物作っているところにすごく近いところにいらっしゃって、滋賀県てこんなに大きな琵琶湖を抱えてですね、いろんな生活に密着した様々な生活スタイルそのまま残ったすごい素晴らしい光がいっぱいあるんですよ。それを皆さんの活動とともに磨きをかけてですね、それをどんどんどんどんブラッシュアップして売り込んでいく、プレゼンテーションしていくことによって、明るい未来がいっぱい積み込まれると私は思っています。是非いろんな会に参加されてですね、これからますます活動を活発にしていただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

（拍手）

閉会の挨拶

嘉田知事より

あらためまして、朝からおつきあいいただきました発表者の皆さん、審査員の皆さん、どうもありがとうございました。もう今の横山さん、福廣さん、そして北井さん、大橋さんのまとめにほとんどすべてが尽くされております。尚いっそう、片寄さんが具体的な行動提案をしてくださいました。今日どうでしょう、発表された方は、うちの地域を見に来てほしい！と思っておられるんじゃないでしょうか。山内の龍神さん見てみたいし、何よりも針江の生水、京都は小畑川、蒲生野もそうですし、ヨシネットワーク、近江八幡もあります。それから世代をつなぐ甲良町の尼子、もちろん瀬田川、野洲、近江八幡、安曇川の扇骨、みんな行ってみたいですよね。でコハクチョウの雛っていったらもう、帰り道寄っていってくださいね。たった 5 分ですから。ということで、どうも西国八十八箇所・三十三箇所ならぬ、環境文化のメッカを訪問する旅というのが作れそうですよね。どうでしょう、皆さん？（拍手）ありがとうございます。

実はですね、昨年 11 月、世界湖沼会議で、中国の武漢に伺いました。これは 1984 年･昭和 59 年に滋賀県から始まった世界湖沼会議が、2 年に一度ずつアメリカ・ヨーロッパ・インド・アフリカにも行き、そして 13 回目として中国の武漢で開催していただいたんですけれども、84 年の時に、中国にも呼びかけたんですけれども、ほとんど参加がございませんでした。そしてその後私もずいぶん中国の太湖とか洞庭湖に行かせていただいたんですけれど、中国の皆さんは、環境保全よりも前に経済発展だとずーっと言っておられたんですが、今回の武漢の湖沼会議では本当にビックリしました。皆さんが、湖の保全・水をどうにかしなければということで、周環境大臣・日本で言う小沢環境大臣のような方が、武漢の 13 回の会議に来られてですね、はっきり言われたご挨拶、その中には、**「琵琶湖は自分たちの環境保全のモデルである、先生である」**と言ってくださったんです。リパーフン（琵琶湖）って中国語で言うんですけれども、リパーフン（琵琶湖）のことをたくさん言ってくれて。ああ良かったなぁって。昭和 59 年に世界湖沼会議を滋賀県から始めたときに当時、外務省から叱られました。「そんな国際の会議などは自治体がやるもんじゃない、国際会議は外務省がやるもんだ！」などと言われたんですけれども、そのときの武村知事が始めて、そして私も琵琶湖研究所で研究員として住民の部会を持たせていただいて、その後 25 年経って、中国の皆さんが琵琶湖は環境保全のモデルであると言ってくださいました。それが武漢なんです。11 月の第一週の最初の 3 日間ほど武漢にいて、そのあと北京に行って、観光のトップセールスをさせていただいたんです。中国の観光庁の皆さんのところや、北京の様々な旅行の団体、日本で言うと、JTB とかあるいは近

畿ツーリストのようなところに訪問しまして、琵琶湖・滋賀県にぜひお越しくださいとＰＲしました。あちこち回ってわかったことは、琵琶湖・滋賀県の知名度は、ほぼゼロです。大阪・京都・次は名古屋でしょ？そんな湖があるの？環境の舞台で知っていただいている琵琶湖も、観光の面ではほんとに知名度ゼロということがわかりまして、それで私がずっと琵琶湖環境保全の説明をさせていただいたら、「私たち学びのために琵琶湖に行かせてください」という人たちが出てきました。ということでですね、実は本当に今、中国の皆さん困ってます。たとえば太湖ですと、夏だけではなく真冬でもアオコが消えない、水道水に出来ないというような悩みがあります。洞庭湖もそうです。それから中国・北京の周辺ですと、黄河。“ 断流的川 ” って聞いたことあるでしょうか。もう水が届かないんです。川がからからなんです。というようなことで、中国の皆さんは滋賀県・琵琶湖の周辺に 140 万人も住んで、これだけ経済発展をしているけれども、ちゃんと飲める水を蓄えている琵琶湖に学びたいと思っておられます。**琵琶湖の水は、沖合に行ったら飲めるんです。**このラフォーレの目の前が琵琶湖ですけれども、精華大の学生さんたちを船で連れて行って、沖合に出て、そのまま汲んで飲みます。飲めます。水道法の基準が 50 項目ほどがあるんですけれど、それをみんなクリアします。１つだけクリアできないことは、塩素が足らないっていうことです。でも、水道法上は、塩素入れなきゃいけないんですが、残り５０項目が全部安全だったら塩素なしで大丈夫です。ということで琵琶湖の沖合の水は飲める、というようなところもみんなに知っていただいて、中国の皆さんに来ていただく。大阪で買い物して、京都で清水寺に行ったら、琵琶湖でそれこそ針江に訪問したり、甲良を訪問したり、コハクチョウも見ていただいてですね、山内の水神さんのところにも行って、これはエコツーリズムとして十分に大きな光があると思っております。国の方は、前原国土交通大臣が先日、全国知事会でおっしゃってました。「僕はダムが要らない、駅も工場も要らないって言って、壊すばっかりの国土交通大臣だって叱られているけれども、観光だけは予算を４倍に増やしました」と前原大臣も言ってます。私も似たことを言ってるなぁと思ってるんですが、駅要らない、ダム要らないって。でも、琵琶湖はちゃんと観光の場所として皆さんに来てほしいと思っております。琵琶湖を大事なところだと皆さんが思う、この観光はいわゆるマスツーリズムではないんです。ばーっと観光バスでやって来て、単においしいところだけっていうことではなくって、皆さんの一人ずつの活動を伝えてもらって、育てていく観光、お互いに友だちになれる観光、太湖がきれいになる、そのために琵琶湖から学んでもらうことがある。もちろん私たちも学ぶことがあります。お互いに学び合うというような観光をしていけたらと思っております。この秋には愛知県で生物多様性の国際条約の締約国会議があります。そのときにも大いに琵琶湖・滋賀県にも来ていただきたいと思っておりますし、いろんな宝がこの琵琶湖と川と田んぼと山に詰まっているということを

改めて皆で確かめ合ってですね、そしてそれをしっかりと国内はもちろん、世界の方、特に水の問題に苦しんでおられる中国やアジアの方たちに伝えて、平和と環境･観光のメッカに滋賀県・琵琶湖をしていきたいと思います。今日は本当に子どもたちや皆さんに、龍神さんやコイやフナのことに気がついてもらった。もう２０年後３０年後も安泰ですよね、片寄さんどうでしょう？

（片寄さん：もうあの世に行ってます…）

私たちはもうあの世に行ってるかもしれませんけれど、あの世に行って、水神さんになって、空からみんな元気でやってくれてるかなぁと見ていきたいと思います。今、目の前に広がっているこの琵琶湖は、天台薬師の池。1200 年前に伝教大師が、なぜ比叡の山の頂に聖なる祠を作ったかっていうと、実は琵琶湖に水神さんが住んでいるからなんです、そういうところに仏様も。ということで、20 年 30 年後にきっと空の上からも見ているんじゃないでしょうか。世代を繋ぎながら大いに、この琵琶湖をより一層みんなで盛り立てていきたいと思います。今日実は、横山さんも福廣さんも普段滋賀に住んでらっしゃらないんですよね。下流から応援してもらっております。北井さんもそうです。そして大橋さんはしっかりと日野川からということで、足元から下流まで含めて全体でより一層、来年も盛り上げていただきたいと思います。来年は県が特にお金も出さず、北井さんたちが実行委員会でやってくださるんですね。はい、みなさんで実行委員会で来年のこの会を繋げていただけるということでございますので、大いに期待をさせていただきたいと思います。長々となりましたけれど、私も来年はお客として訪問させていただき、この会をより一層盛り上げていただきたいと思います。皆さん、これから夕焼けが大変美しいです。このラフォーレから見る、西の比叡山に沈む夕焼けを皆さんと共に楽しみながら、今日一日の担当者の皆さんへの御礼も含めて、あいさつを終わらせていただきたいと思います。皆さん、どうもありがとうございました。

（拍手）

実は、先ほどの賞状、全部写真も違うんですよ。その写真も、担当の職員たちがみんな自分たちで手作りで作ってくれました。住民参加ということがありますけれど、行政参加。行政が住民の皆さんのところに参加させてもらう、双方向でお互いに元気を！ということで、土のうのお姉ちゃんだけでなく、お兄ちゃんもおじさんもたくさん居りますので、知事から職員のことを褒めるのはちょっと申し訳ないんですけれども、みなさんからもぜひ、力を出せるように応援していただけたらと思います。どうも今日はありがとう。

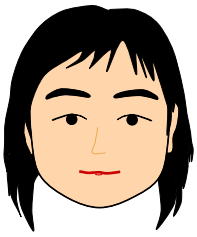
（拍手）

5）公開討論会 選考員のみなさん

テーブルＡ

コーディネーター

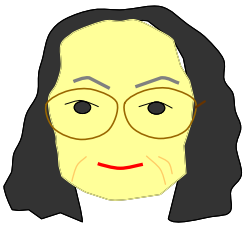
横山 葵 （よこやま あおい）さん/ NPO 法人 人と自然とまちづくりと



大阪府生まれ。技術士（総合技術管理、都市及び地方計画／道路）。人と人とが話し合うといろんな気づきがあり、楽しさと共に、勇気や元気、アイデアや行動など様々な事が生まれる事に感動。“ 人っていいな ” と言う気持ちから人と人を繋ぐ “ 場作り活動 ” を実施中。

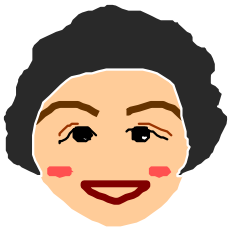
選考員

中井　正子（なかい まさこ）さん/おおつ環境フォーラム



大津市在住、2001～「おおつ環境フォーラム」運営委員。「フォーラム通信」担当。昨年「おおつ環境フォーラムエコ祭り」（「親子で遊んで ECO になろう」）の実行委員長。本祭りでは過去に「エコアート展」「海外の子どもの環境絵画展」等開催。2008 年 滋賀県流域治水検討住民会議委員。

荒井　紀子（あらい のりこ）さん/ホタルの学校



この２０年間、蛍を守ることのしんどさと楽しさをいっぱい体験してきました。川でたくさんの生きものたちと出会い、子どもたちや地域の多くの人たちと出会い「生きものたちは、人と人との心をつなぐ」を実感しています。１月２３日に開かれた「近畿子どもの水辺交流会」では、実行委員としてお手伝いさせていただきました。

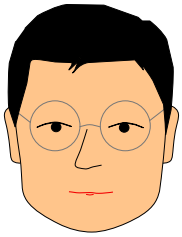
若林　譲（わかばやし ゆずる）さん/滋賀県 農村振興課長

私の生まれ育った朽木には、かつては田んぼにはタガメやトンボが、近くの小川にはサカナがいっぱいいました。そしてそれが生きものいっぱいの川にもつながっていたように思います。こうした環境を取り戻そうと、今、田園の自然環境や景観、農地・農業用水の保全など、農村の資源を良好な形でまるごと保全する取り組みが、県内各地で拡がっています。

テーブルＢ

コーディネーター

福廣 勝介（ふくひろ しょうすけ）さん /ＮＰＯ法人 近畿水の塾



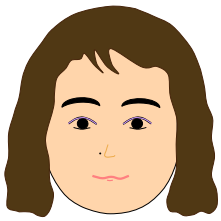
京都大学農学部林学科卒業後、日本住宅公団（住宅都市整備公団を経て現・(独)都市再生機構）に入社、主に集合住宅の屋外の計画設計業務に従事。現職は（財）住宅管理協会関西支部。自然復元系や参加型の仕事に関心がある。三重県伊賀（名張市）に生まれ、爾来、数年間を除き名張住まい。関心事は、自然との付き合い。人との付き合い。地域。時間。信頼型社会の復活。

選考員

歯黒 恵子（はぐろ けいこ）さん /ＮＰＯ法人 蒲生野考現倶楽部

高度経済成長に伴い、物の豊かさ、便利さと引き換えに、豊かな自然や人情など失ったがものが数多くあることに気づき「ＮＰＯ法人蒲生野考現倶楽部」で活動を始めて１１年、身近な流域で「生態系の調査や保全活動」「自然再生への挑戦」「人と自然・人と人とのつながりを取り戻そうとする活動」など、それぞれの活動を通じて得られた共通の事柄は新しい発見と仲間が出来、次世代の子どもたちにも伝えることが大切と考えている。

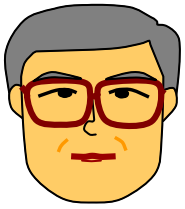
小坂 育子（こさか いくこ）さん/子ども流域文化研究所



三重県生まれ。

水と文化研究会・子ども流域文化研究所・地元学ネットワーク近畿。「水と人とモノの関わり」にある身近な水環境を通して、それぞれの地域の暮らしにあるいろいろな仕組みを学びながら「ムラの元気応援団」をめざしている。

清水　重郎（しみず じゅうろう）さん/滋賀県 土木交通部技監



「県の職員はもっと地域に足を運んで、地域の声を聴いて、行政に反映すべきだ」という意見をよく頂きます。『淡海の川づくりフォーラム』が、地域との連携活動に繋がればと期待しています。

テーブルＣ

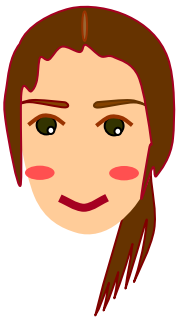
コーディネーター

北井 香（きたい かおり）さん /ＮＰＯ法人 木野環境

奈良県山辺郡山添村生まれ。興味があるのは田んぼ、農村の文化、そこで生きる人、日々重ねられた生活。
子ども流域文化研究所での過去の水害聞き取り調査に従事し、現在は京都の NPO法人 木野環境に所属。「持続可能な社会をつくる」という理念に沿えば何でもテーマになる団体で、ここ数年は滋賀県の棚田保全活動に関わっています。

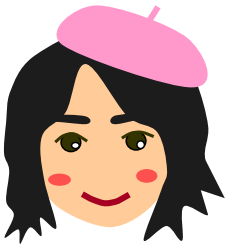
選考員

菊池 玲奈（きくち れいな）さん /結・社会デザイン事務所



2002 年 10 月から約 2 年､霞ヶ浦の環境保全などに取り組む NPO 法人アサザ基金に勤務。2004 年 10 月から約 4 年、東京大学大学院保全生態学研究室にて、市民・研究者協働による生物多様性保全に関する実践的研究に携わる。現在、滋賀県に移り住み、環境保全に関するさまざまプロジェクトのコーディネートや講演などを中心に活動中。

小丸 和恵（こまる かずえ）さん /ＮＰＯ法人 子どもと川とまちのフォーラム



大阪府生まれ、愛媛県と京都府育ち。
京都の出版社で生活の糧を得つつ、フォーラムの世話役をつとめる。
『“ 子どもが育つ流域の再生 ” のためには、世代や立場、分野の壁を越えて人々が信頼関係のもと、つながることが大切」との想いから活動を続ける。果たしてそれが可能なのか…。現在も模索中。

中谷 恵剛（なかたに けいごう）さん/滋賀県 河港課長

洪水に強い安全な川づくり、誰もが親しめる川づくり、生きものいっぱい、緑がいっぱいの自然豊かな川づくりを進めたいと思っています（琵琶湖も一級河川です）。
タナゴ、ニゴロブナ、ホンモロコ、メダカ、オニヤンマ、ギンヤンマ、ゲンジボタル等々が身近なものになるような水辺の復活を目指して。

全体選考

横山 葵 さん（よこやま あおい）さん/ ＮＰＯ法人 人と自然とまちづくりと

福廣 勝介さん（ふくひろ しょうすけ）さん/ＮＰＯ法人 近畿水の塾

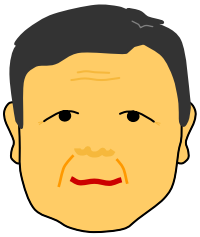
大橋 正光さん（おおはし まさみつ）さん /半鐘の会

1942 年生まれ。平成２０年、滋賀県が県民から１０名の委員を公募して設置した住民会議の座長として、提言「水害から命を守る滋賀県民宣言」のとりまとめに尽力した。滋賀県における流域治水対策・川の未来づくりに取り組んでいる。

北井 香（きたい かおり）さん/NPO 法人 木野環境

総合コーディネーター

片寄　俊秀 （かたよせ としひで）さん/国土交通省 淀川河川レンジャー選定委員



1938 年生まれ。大阪人間科学大学教授。環境芸術家、まちづくりプランナー、花鳥風月のまちづくり研究所・まちづくり道場主などを勝手に名乗るが、要は水辺と下町の同時的再生こそが人類の明日に、ほのかな＜希望＞をもたらすと信じ行動する「川じじ」。技術士・工学博士。著書『まちづくり道場へようこそ』、『いい川・いい川づくり最前線』(共著)、『いいまちづくりが防災の基本』。

コメンテーター

嘉田　由紀子（かだ ゆきこ）さん /滋賀県 知事

埼玉県生まれ。京都大学農学部卒業、ウィスコンシン大学大学院修士課程(農村社会学)修了、京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て、滋賀県知事に就任。好きな食べ物はふな寿司、ニシンナス、ぜいたく煮。趣味はカラオケ、孫と過ごすこと。特技は手打ちうどん、地図が読める。座右の銘、「まっすぐに、しなやかに」。

６）参加団体の活動紹介

団体名：	①針江生水の郷委員会
発表内容 	2004 年正月にＮＨＫハイビジョン番組で「里山命めぐる水辺」の放送以来、湖西の片田舎に方々から見学者が訪れることとなった。おりしも全国的に児童を狙った誘拐事件が数多く伝えられている最中であり、当地区に於いても未遂事件が発生しました。 こんなことから住民にとっては見ず知らず人々が地区内を散策されるのを不安感一杯で見守るしかないのかと思っていました。 そんな中、住民の生命・財産は自分たちの手で守ろうと起ち上がったのが針江生水の郷委員会です。住民自ら見学者の案内を行い、各個人の住宅にある川端や昔ながらの漁場である中島を訪れる事で、地の人が見守っていてくれることで、住民の不安感が払拭できることとなりました。 生水、川端、無数の小さな水路、中心部を流れる針江大川、どれも住民は昔から慣れ親しんできた水との関わりは極当たり前であり、取り立てて大切なものとも思ってもいませんでした。ところが見学者との交流からこの地区の豊富な(生水と川端)湧水との関わりは全国的にも大変恵まれた場所であることが日増しに認識されるようになった。 ７年目を迎えた針江生水の郷委員会は単なる見学者の案内から地域の環境保全や環境学習へと年を追う毎に活動の手を伸ばしています。是非、私たちの取り組みをお聞き下さい。
活動中の川や水辺の名称：	針江大川 滋賀県高島市　針江集落　付近
活動内容：	環境保全と環境学習および景観など保全・継承活動

団体名：	②チーム・アクア
発表内容： 	地球は水の惑星といわれ、海が全表面の 75%を占め、14 億立方キロメートルもの水がありますが、私たちが飲料用等に使える水はそのたった 0.01%しかありません。また、2025 年には全世界の 2/3 で、2050 年には全世界規模で水不足が深刻化するとの予測がされています。今、日本では水不足を実感することは少なくなりましたが、アジアやアフリカの国では安全な飲料水を得られない人が 12 億人程度だといわれています。また、不衛生な水のため、毎日 6 千人の子供たちがなくなっているのも事実です。 このように水を巡る状況は非常に深刻なものとなってきています。そこで私たちチーム・アクアは、『水循環』について研究を行い、水の大切さ、貴重さを住民の方々に再認識していただき、さらに水に親しんでもらうための施策提案をまとめました。 チーム・アクアは、京都府の自主研究、政策ベンチャーの一環として活動しましたが、今回の取り組みでは、京都府の職員だけでなく、京都大学の准教授、向日市の職員、それからＮＰＯから柳沼宣裕さんにも参加していただき、行政とＮＰＯといった新たな公のセクターとの連携が大きな特徴です。
活動中の川や水辺の名称：	一級河川　小畑川 京都府長岡京市　勝竜寺　付近
活動内容：	住民との連携

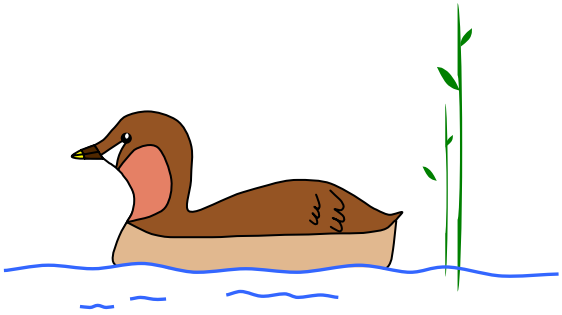
団体名：	③ＮＰＯ法人　蒲生野考現倶楽部
発表内容 	「活動のテーマ」 かつての暮らしの中で輝いていた蒲生野の溝がここ４０～５０年で排水路と化し水辺で遊ぶ子どもたちの姿を見かけなくなりました。琵琶湖に注ぐ日野川には田からの濁水が増え、琵琶湖では外来種の魚が在来種を脅かすようになりました。そこで、川や水路、琵琶湖を多彩な生き物の生命が育まれる場にしたいと子どもも大人も一緒になって守ろうと住民に呼びかけました。 「活動の内容」 ・　モニタリング調査(水環境(年４回)、植物(毎月)、鳥(年４回)、蛍(年４回))の様子 ・　かいどり大作戦(毎年子どもの夏休みに日野川で生き物、水質、水音などの調査)の様子 ・　ほのぼの蛍コンサート・ホタル鑑賞会、みぞっ子探検隊による生き物調査の後)の様子 ・　環境こだわり米づくり(田植え、生き物観察、収穫祭)の様子 「発表内容」 ・　たんけん、はっけん、ほっとけん 蒲生野考現倶楽部の合言葉で、たんけんに出かけ、いろんなものをはっけんし、ほっとけない活動を発表します。 ・　子どもと親、地域の人たちと一緒になって学びあい、自然に触れ保全することの大切さなどを発表します。
活動中の川や水辺の名称：	日野川、佐久良川（支流） 滋賀県蒲生郡　日野町 と 東近江市（旧蒲生町）付近
活動内容：	水環境（川での遊び、生き物調べ）

団体名：	④ウォーターステーション琵琶 子供環境班
発表内容： 	わたくしたちは平成１６年以来、びわことその流域の水環境について、小学校の総合学習ほかの支援をしてきました。テーマは「びわ湖とヨシ」です。 活動は、お話・園芸・工作・川辺や湖沼など現地に広がり、琵琶湖と水と自らの生活との関わりからの経験と実践に基づき展開しています。このことで「次世代に向けた水環境の具体的な取組活動のきっかけづくりを支援し、問題意識をこども達にもたせる」こととしています。 ここではこれら活動の一端をご紹介します。
活動中の川や水辺の名称：	瀬田川、高橋川、琵琶湖 滋賀県大津市　瀬田　付近
活動内容：	「びわ湖とヨシ」プログラムによる水環境についての啓発・啓蒙

団体名：	⑤ヨシネットワーク
発表内容： 	私たちは ①環境学習の講師 ②ヨシ工芸作品の制作やヨシ工作の指導者 ③「よし笛」演奏グループ等様々な特技を持った人たちで構成されていますが、みんな「琵琶湖が大好き!!」という共通点でつながっています。 琵琶湖の良さや大切さを理解し、たくさんの人に身近な問題として考えてもらうようとり組んでいる当会のユニークな活動を報告し、当フォーラムに参加された方々と新たな連携を目指します。
活動中の川や水辺の名称：	琵琶湖 滋賀県一円
活動内容：	各種環境イベントや環境学習の実施

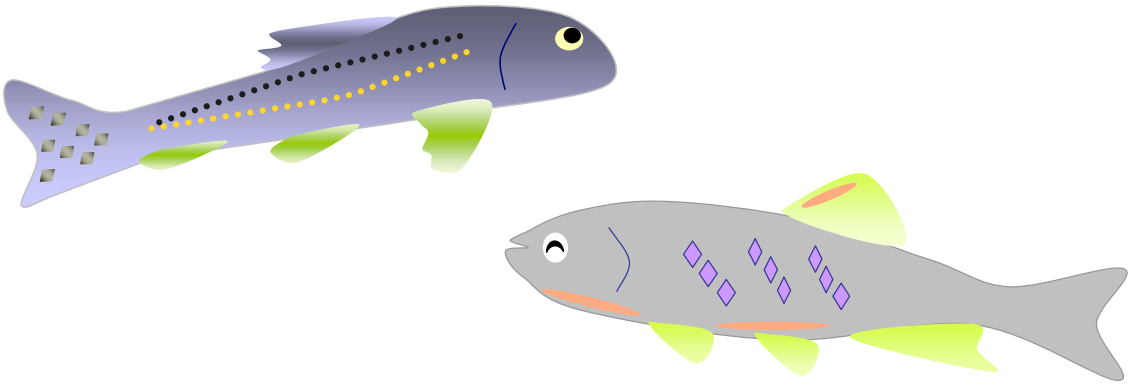
団体名：	⑥佐用町おたすけ隊　土のうのお姉さん
発表内容： 	平成２１年８月、兵庫県佐用町を襲った豪雨は、まちを破壊し、尊い命をも奪いました。 滋賀県からは、歴代水防担当（女性が多い！）を含む１４名の若手職員が、職場の上司にもきちんと告げず、勝手に佐用町へと向かいました。 凄惨な被害現場を目の当たりにし、僕たちは言葉を失いました。けれども、人と人とのつながりや出会いの中で、明日に向かう気力となって、復興へと繋がっていくことを実感することができました。 ふだん、法令遵守や公平性の確保など、いろいろな決まりや慣行があって、上司に断らないと何もできないし何も決めることができない僕たち。けれど、自分たちの素直な思いを行動につなげることがこれほど地域の役に立てるのだと、公務員としての原点・喜びを佐用町で思い出すことができました。 晴れの日の湖岸の砂浜で訓練した、「土のう作り」がちゃんと役立ちました。地元の高校生たちからの尊敬のまなざし。役場からの差し入れ。じいちゃんの喜ぶ顔とよく分からない冗談と感謝のコトバ。 僕たちはもっと地域の役に立ちたい。よろこばれる仕事をしたい。僕たちの滋賀県で。
活動中の川や水辺の名称：	千種川 兵庫県
活動内容：	災害復旧

団体名：	⑦世代をつなぐ尼子協議会
発表内容 	尼子区内を流れる尼子川。区民が誇れる先代が残してくれたこの素晴らしい自然遺産。いつ頃構築されたのか定かではない。おそらく我々の先祖もこの川を大いに利用して、生活していたことは確かである。今日までに護岸の補強工事や一部底打ち工事等の施工はされたが、１世紀以上経過した現在もほぼ昔のままの姿でその機能を発揮し、生活用水、農業用水として我々の大切な資源としてその川が利用できていることの喜びを日々痛感している。十数年前にカキツバタが植えられ、また下流にごみが流れないようにと各ポイント毎にゴミ止めを設置し、当番制でゴミ取りを実施したり、金網で製作した蛇籠に竹炭を詰め水質浄化に努め、夏には蛍が舞い、川には常に魚が泳いでいるきれいな尼子川の環境保全を目指し、次の世代へスムーズにバトンタッチができるように区民が一丸となって取り組んでいます。
活動中の川や水辺の名称：	犬上川支流　尼子川 滋賀県犬上郡甲良町　尼子　付近
活動内容：	年２回の里川一斉掃除、毎日(週)のごみ取りの実施、竹炭による水質浄化

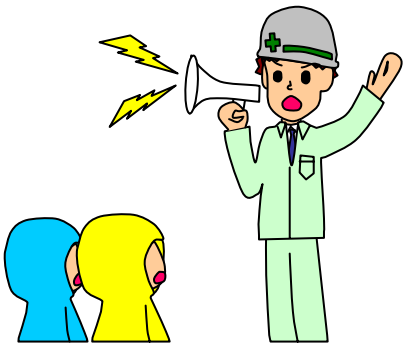


団体名：	⑧ＮＰＯ法人　瀬田川リバプレ隊
発表内容： 	「活動テーマ」瀬田川に注ぐ小さな１級河川の清掃活動 「活動内容」　河川ののり面に生える雑草の事前刈り込み作業、毎月２５日に刈り取られた枯草の袋詰作業 他 「発表内容」　この活動開始より３年余経過行政担当部門との連携が少しずつ整ってきた報告です。
活動中の川や水辺の名称：	一級河川高橋川（淀川水系） 滋賀県大津市　建部大社　付近
活動内容：	河川の清掃活動

団体名：	⑨野洲市ゆりかご水田協議会
発表内容： 	かつて琵琶湖岸の田んぼは、湖とつながりフナなどの産卵繁殖に格好の場所でした。そのような田んぼも近年ほ場整備が実施され、水路と田んぼの段差が大きくなり、魚たちの田んぼに入りにくくなりました。 そこで、私たちはもう一度田んぼに魚を取り戻そうと、水路を階段状に堰上げることにより魚を田んぼまで上がらそうという活動をしています。 この活動は、魚たちだけのためだけではなく、地域活動の活性化やとれた米のブランド化（魚のゆりかご水田米）などを期待しています。
活動中の川や水辺の名称：	江口川　八軒堀 滋賀県 野洲市の琵琶湖に近い田んぼや排水路
活動内容：	魚たちを田んぼに取り戻す活動



団体名：	⑩砂防ボランティア 砂防ボランティア全国連絡協議会 滋賀県砂防ボランティア協会
発表内容： 	・　土砂災害に関する知識の普及、啓発活動 ・　土砂災害危険箇所の点検や危険度判定活動及び行政等への連絡 ・　大規模な土砂災害が発生した場合、二次災害防止のためのボランティア活動 ・　砂防防災に関する会員の技術向上 ・広報(駅頭での防止月間キャンペーン…旗及びティッシュ) ・ガケ　パトロール ・出前講座(今年は金勝小学校５年生等への砂防について、防災についてボランティアからの説明、学習) ・ボランティアメンバー間の技術力アップのための現地勉強会
活動中の川や水辺の名称：	県下　土砂災害危険箇所（土石流危険渓流、急傾斜地崩壊危険箇所） 滋賀県　県下一円
活動内容：	広報、現地パトロール、教育、防災訓練



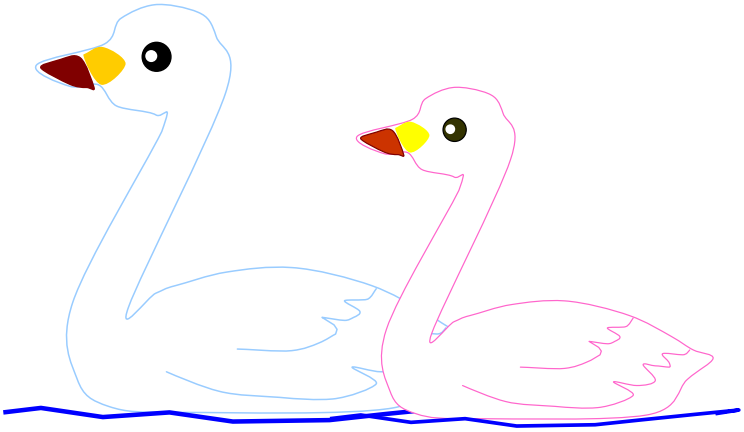
団体名：	⑪近江八幡市立馬淵小学校４年生
発表内容： 	馬淵小学校は、白鳥川と日野川に挟まれた場所に位置し、特に白鳥川は目の前を流れています。この恵まれた環境を生かし、白鳥川およびその周辺に生息・生育する動植物について川の中に入って学習しました。 また、掘込み河川の白鳥川、天井川の日野川が水利用の面で地域とどのようなつながりを持っているかについて学習するとともに、これらの河川がはん濫した状況を想定し、通学路近辺の危険箇所についての現地調査やそれを踏まえたハザードマップづくりを行いました。さらに、水害体験者を学校に招き、過去にこの地域に起こった水害の状況のお話を伺いました。 今回の発表では、このような「治水」、「利水」、「環境」の総合的な学習を通じて学んだ成果を発表します。
活動中の川や水辺の名称：	一級河川白鳥川（淀川水系）、近江八幡市馬淵学区
活動内容：	治水、利水、環境の総合学習

団体名：	⑫虎姫災害支援活動ネットワーク連絡会
発表内容： 	虎姫は、地域の西を高時川、南を姉川が流れ、字の中をたくさんの小川が流れる清流の里です。　反面、大きな洪水が発生し河川が氾濫すれば虎姫地域のほとんどが水没する恐れがあります。 このため、町内の行政・企業・学校・商工会・各種団体・社会福祉協議会などが一堂に会し、織の枠を超えて災害への備えについて話し合いや取り組みを重ね、災害時における救援活動や復興活動が効率的かつ迅速に行えるよう、平成２１年３月に「虎姫町災害支援活動ネットワーク連絡会」を立ち上げました。 連絡会には現在以下の４つの部会を設置し活動を展開しているところです。 ①「チームみずすまし」川をきれいに！クリーン作戦部会 ②「ひとネット　プラス　いのちネット」体験型防災講座部会 ③合同！避難訓練部会 ④「災害時　とらひめお助けマン」災害支援ボランティア登録制度部会 最近は、ゲリラ豪雨と呼ばれる集中豪雨が多発していること、河川の中では雑草や木が生い茂っていること、生活のための橋とＪＲの橋脚が近接しており、流木により河道が閉塞して、はん濫する恐れがあることなど、住民の水害への不安の声は日増しに大きくなっています。 「チームみずすまし」では、私たちにもできることはないかと考え、まずは町内のたくさんの河川の地図を作成して川の歴史を調べたり、水害への備えについても学び、考えているところです。 まだまだ活動は始まったばかりですが、今後は姉川の中の草刈り・伐採などの作業に取り組み、そして、川に親しむ遊びやきれいな川のコンテストなどに繋げていきたいと、夢は膨らんでいるところです。
活動中の川や水辺の名称：	姉川、高時川、町内の河川 滋賀県長浜市　虎姫　付近
活動内容：	災害時、組織を超えて地域全体が連携できるような話し合い・取り組み

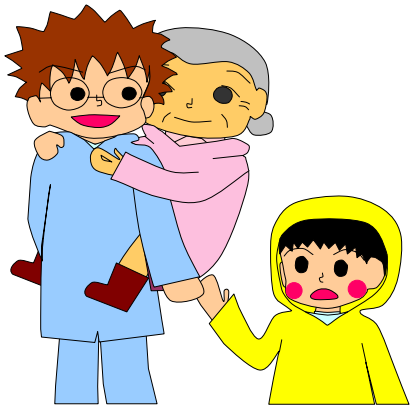
団体名：	⑬安曇川扇骨の里と桜街道復活協議会
発表内容： 	○　安曇川の竹林は、江戸時代に水害防備林として植えられたもので、その竹を利用した扇骨づくりが地場産業として発達してきた。しかし、原材料の竹が安価な中国産となったため、人の手の入らなくなった竹林は次第に荒廃した。 ○　このような中、「人が入れないほど密集した竹林の竹林公園や桜並木への復元」、「竹林整備等で発生する竹林の有機質肥料への活用」を目的に建設業協会高島支部等の関係者が「安曇川扇骨の里と桜街道復活協議会」を立ち上げた。 ○　協議会は、県建設業協会高島支部、高島市、県高島土木事務所、びわ湖高島観光協会、県扇子工業協同組合、北船木漁協、地元自治会、あどがわエコツークラブで構成されている。 ○　昨年、国土交通省が創設した「建設業と地域の元気回復助成事業」に「安曇川扇骨の里を巡る桜街道とふるさとの川辺整備事業」が採択され、竹林整備に取りかかっている。また、１１月にはその記念イベントが開催された。 ○　このように、さまざまな団体が協力して安曇川の竹林整備に汗を流しているというところをフォーラムでアピールしたいと考えています。
活動中の川や水辺の名称：	安曇川 滋賀県高島市　安曇川町　川島から南船木　付近
活動内容：	竹林の整備

団体名：	⑭水害履歴調査隊
発表内容： 	平成２１年７月より滋賀県で水害体験験者から、水害の記憶と知恵を収集する“水害履歴調査”の取り組みを開始しました。 水害体験者のお話には「水害時にどのように行動したらよいのか」というヒントがあり、地域の風景の中にも水害から命を守る知恵が隠されていることが分かってきました。 今回、水害履歴調査で出会った虎姫の物語を発表します。
活動中の川や水辺の名称：	田川、高時川、姉川 滋賀県　旧虎姫町
活動内容：	滋賀県水害履歴調査

団体名：	⑮環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会
発表内容： 	例年冬期、ロシア極東圏より渡来するコハクチョウや水鳥の観察、保護活動を１０年にわたり行っており個体識別調査も行っています。年間を通じ月例清掃活動、環境整備を行い安全で美しい琵琶湖の良い環境つくりに取り組んでいます。 渡来地の南湖も近年温暖化の影響と思われる外来水草が異状繁茂し湖面を覆うため湖内に入り除去作業を行いました。その水草の中に放置された釣り糸や針でコハクチョウが３年連続被害にあっている。渡来期間中も水上スキー、バスボート、軽飛行機などの乗り物が渡来地に現れ水鳥たちを驚かし、人間によって生息地の環境を脅かしている問題があげられる。ラムサール条約に登録されている琵琶湖、自然と水鳥と人間が共生できる環境を目指し、私たち環境ボランティアの活動信条である 琵琶湖を美しくいつまでも残したいコハクチョウたちの来る良い環境つくり をモットーに次世代の子供の未来へ思いをつなぐ、環境啓発活動へ積極的に取り組んでいます。
活動中の川や水辺の名称：	琵琶湖 滋賀県草津市　志那 湖岸緑地と南湖
活動内容	コハクチョウや水鳥の愛護支援と環境活動



団体名	⑯山内エコクラブ
発表内容： 	私たちは、自然豊かな山内の水文化を調べ、地域の良さをみんなに伝えています。調査の中で、井戸にお鏡を供えて水を大切にしていたこと、伝統行事の「花笠踊り」は雨乞い踊りだったこと、野洲川の水質や生き物調査から上流から下流に行くにしたがって水が汚れていくこと等が分かりました。そして、分かったことを元に、ジャンボ絵本「鈴鹿物語」を作りました。 特に驚いたことは、山内地区には、先祖の霊が水分（みくまり）の神になって村を守るという山中他界観という考え方が最近まであったことです。ここでは、人は自然の中で生かされているという考えから、水は天からの恵みと捉えられていました。しかし、道具としての水に変わったとき、命をつなぐ水や川への思いが無くなり、河川や琵琶湖の水は汚れだしました。先人の川への思いを伝えていきたいと思います。
活動中の川や水辺の名称：	野洲川（田村川、笹路川） 滋賀県甲賀市　山内地区　付近
活動内容：	暮らしに生きる水文化の調査

団体名：	⑰みずすましネットワーク
発表内容： 	みずすまし構想の理念に基づき、農村環境保全の実践活動に取り組む地域住民の主体的な取り組みを支援する目的で設立した「みずすましネットワーク」のこれまでの活動をご紹介することにより、「みずすましネットワーク」を知っていただき、環境保全活動に対して興味のある方にメンバーとなり一緒に活動していただくことを目的とします。 活動内容としては、年に２回程度運営委員会および交流会を開催し、農村地域の環境保全活動を実践していく上で参考となるよう、講師をお招きしご講演をいただいたり野外に飛び出し実習をしたりしています。今年度は、生物多様性をテーマにしたご講演と、田んぼに出て土壌動物調査の実地研修を行い、最後に多様な立場の方からの意見交換をしました。 また、ホームページの開設・更新にメルマガを連動させて、各地での環境保全活動の情報を発信し、参加者の募集や活動結果を皆さんにお知らせしています。
活動中の川や水辺の名称：	滋賀県全域
活動内容：	環境保全活動

団体名：	⑱特定非営利活動法人　ＮＰＯ 子どもネットワークセンター天気村
発表内容： 	草津市に多く在住する３～５歳の子どもを持つ２０後半～３０歳代の親(子育て家族世代)は、自らの遊び体験が少ないばかりか、災害体験がほとんど無く、親である意識の希薄さが子育てに影響といわれています。そこで子育て防災トレーニングプログラムを地域と連携して実施し、自主防災の取り組みに親子が気軽に参加することによって地域とのつながりができ、減災意識 や災害に強いまちづくりの礎を築けます。 また子育て世代の参加が少ない行政主催の出前講座や防災シンポジウムなどに子育て家族防災トレーニングプログラムを同時開催することで、子育て世代にもわかりやすくハザードマップなどの情報を伝えることができます。
活動中の川や水辺の名称：	草津川 滋賀県草津市　付近
活動内容：	子育て家族防災トレーニング